

# 兵庫の保育

題字は齋藤知事

2026.1.10 第113号

## 次代を拓く兵庫の力

兵庫県知事

齋藤元彦



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、阪神・淡路大震災から30年、終戦から80年という大きな節目を迎え、過去を振り返り、未来への責任を改めて心に刻む、意義深い一年となりました。

令和8年は午年。力強く駆け抜ける「行動力」と「挑戦」を象徴する年であり、未来に向けた兵庫づくりを力強く進めてまいります。

第1は、若者・Z世代へのさらなる支援です。県立大学授業料無償化等の教育費負担の軽減、県立学校の教育環境の充実、海外留学支援、不登校やケアリバー、ヤングケアラー等の課題を抱える若者への支援など、一人一人が自らの夢や目標に向かって、力を発揮できる環境を整えます。

第2は、活力あふれる兵庫の創出です。フィールドパビリオンなどの万博のレガシーを活かした交流人口の拡大や、スポーツ・芸術文化の振興、農林水産業や地場産業への支援など、地域の魅力を高め、活力ある兵庫を築いていきます。

第3は、安全安心な暮らしを支える基盤の強化です。南海トラフ地震などの大規模災害に備え、防災力を高めるとともに、上下水道の老朽化対策、特殊詐欺被害対策、ツキノワグマ対策などの日常の安全を守る取組を強化していきます。

長引く物価高騰により生活に困窮する方、福祉サービスが必要とする子ども、高齢者、障害をお持ちの方などへの支援が一層求められています。

誰一人取り残されることのない、地域共生社会ひょうごの実現を目指し、持続可能な保育の提供体制の構築等を通じた子どもを産み育てやすい環境づくりをはじめ、介護・障害福祉サービスの充実やひきこもり、孤独・孤立など様々な困難に直面する方への支援を市町等と連携・協働し、強化してまいります。

未来を見据え、県民の皆様とともに新しい時代を切り拓いていく決意です。どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



新年あけまして

おめでとうございます

ございます

兵庫県保育協会



## 新年のご挨拶



兵庫県保育協会の会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、日頃より、保育事業の提供を通じて子どもたちの健やかな成長を支えていただくとともに、子育て世代の支援にもご尽力をいただいております、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、国においては、こども未来戦略に基づき、保育士の配置基準の改善や処遇改善の強化とともに、こども誰でも通園制度の令和8年度からの本格実施に向けた準備が進められました。

直近では、令和7年度補正予算により、生活の安全保障・物価高への対応などを柱とした総合経済対策が打ち出され、子育て家庭への主な支援として、子育て応援手当や昨年度に引き続き保育士の処遇改善として公定価格の人件費の5・3%改善が示されました。保育の質の向上及び人材確保を図る観点からも、保育士の処遇改善は重要であり、今後、県としても対応を検討してまいります。

また、経済対策では県においても国の対策を踏まえ、昨年12月議会で可決された約2億円の補正予算に基づき、保育施設への光熱費や食糧費等の支援

## 兵庫福祉部長 岡田 英樹

を速やかに実施してまいります。

本県における令和7年4月1日の待機児童数は、保育所等定員の着実な拡大や皆様のご協力による受入定員の弾力的運用などにより、前年から57人減少し、199人となりました。今後も保育需要の推移等を見定めながら保育

## 国の保育情勢報告

高砂支部・正蓮寺こども園園長 高谷 俊英 (副会長)

令和7年度は保育における保育士配置基準について、従来の3歳児15対1、4・5歳児25対1に引き続き、1歳児の5対1配置が加算措置によって可能となりましたが、3歳児や4・5歳児配置改善とは異なり基準自体の見直しは留保され、さらに加算を受けるために保育士の平均経験年数等の要件が各種設けられるという不完全なものとなりました。一方、公定価格においては60人定員区分より少数の定員区分割が10人から5人になるなど、少子化に対応した形に一部ではありますが改正されました。また、前年度の人事院勧告における国家公務員の地域区分の見直しに伴う変更が検討されましたが、東

所等整備による受皿拡大や保育人材の確保に、市町や皆様としっかりと連携して取り組んでまいります。

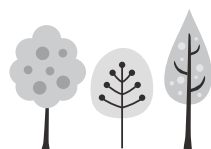
特に喫緊の課題である保育人材の確保については、今年度から新たな取組として「高校生のための保育の仕事体験事業」を開始しました。会員の皆様との施設でも多くのご協力をいただいたところであり、改めてお礼申し上げます。

最終的には、約250名の高校生の参加があり、その多くが保育士養成施設

設への進学を希望・検討するなど、保育士への関心を高めることができました。令和8年度は、このような成果も踏まえつつ、保育人材確保に向けた取組を更に強化してまいります。

保育所に求められる社会的役割や期待は、今後ますます大きくなるものと考えられます。会員の皆様におかれましては、今後とも、ひょうごの子どもを育ちを支えていただくよう、更なるご発展とご健勝でのご活躍を心からお祈りいたします。

各施設10万円等の物価高騰への支援が補正予算として決定されましたが、私たちが要望しているのは、年々高騰する物価の変動に機敏に対応できる公定価格制度であり、引き続き年末の予算編成へ向けた要望活動を継続しているところです。新年度の制度改正は今の段階で明らかにはなっていませんが、懸案の地域区分の見直し、公定価格への物価の適時適切な反映、人口減少地域における保育機能の維持拡大策、こども誰でも通園制度の全国展開に伴う運営費の改善等、年末までには一定の方向性が示されるものと思われます。





# 令和7年度兵庫県保育大会を終えて

幼保連携型認定こども園松帆南園長 金藤 江里  
(淡路地区長)



蒼開中学校・高等学校ジャズバンド部



戸田敦大淡路市長



齋藤元彦兵庫県知事



淡路市12施設によるドキュメンテーション

令和7年10月25日(土)、豊かな自然と文化、太陽の光に包まれ、人々の笑顔があふれる淡路のウエルカムシティー、外観は淡路市に縁のある「静御前」が舞を舞うときの「扇」をイメージした、しづかホールにおいて兵庫県保育大会が開催されました。当日は県下各地より多数の保育関係者やご来賓の方々にご臨席いただき盛会のうちを終りました。参加いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。

オープニングアトラクションでは、地元、学校法人柳学園蒼開中学校・高等学校ジャズバンド部の皆様が大変すばらしい演奏を披露してくださいました。

式典では、塩田保育園主任保育士の森加奈子先生による児童憲章朗読に始まり、伊達恵一兵庫県保育協会会長の開会宣言の後、主催者挨拶では齋藤元彦知事、そして戸田敦大淡路市長から歓迎の言葉、続いて来賓挨拶では大豊康臣兵庫県議会副議長と岨下博史淡路

市議会議長からのお祝いの言葉を頂戴いたしました。他にも兵庫県議会議員、洲本市長、南あわじ市長、保育士養成校などの方々がご臨席くださり盛大な式典となりました。

続く表彰式では創意工夫保育賞の審査を務めていただきました、甲南



女子大学人間科学部総合子ども学科 国立大学法人神戸大学名誉教授 伊藤篤様から講評をいただいた後に、齋藤知事から「創意工夫保育表彰」が授与されました。また伊達会長からは「永年勤続職員表彰」が

談形式でご講話いただきました。

最初に淡路島の洲本市にまつわる民話。しばえもんの読み聞かせをしていただき、淡路での思い出話をしながら、現在の教育・保育現場の状況等、会場に来てくださっている方と対話しながら、和やか雰囲気の中で進められました。

閉会式では、淡路地区長として、参加者のお礼と表彰受賞者へのお祝いに加え、実行委員長を中心に淡路地区の皆様、大会に携わっていただきましたすべての皆様に感謝の気持ちを述べさせていただきます。次回開催地でもあります西播磨地区の中川晋平地区長に大会旗を手渡し、来年度は宍粟でお会いできることを心より楽しみにご報告とさせていただきます。兵庫県、淡路市をはじめ関係者の皆様方、本当にありがとうございました。

# 保育現場におけるDXについて

## 「記録・共有・学びの循環を生む城崎こども園の実践」

北但支部・城崎こども園園長 西垣 浩文

### 1. ICT導入の背景と目的

城崎こども園（兵庫県豊岡市・城崎温泉地区）は、観光地という外からの人の出入りが多い一方で、人口減少と子どもの減少が進む地域にあります。1953年の開設以来、地域の変化とともに園の形態も変化し、2015年には公立幼稚園との統合により幼保連携型認定こども園として再スタートしました。

この転換期において重視したのは、保育の継続性と一貫性です。活動を単発で終わらず、子どもの経験が次の活動へとつながるようにするため、保育計画や記録のあり方を見直しました。その過程でICTを活用した保育記録と情報共有の仕組みを導入し、保育の見通し・記録・振り返りを園全体で共有できる体制を整えました。

### 2. ICTからDXへ

#### 「デジタル化の先にある組織変革」

ICT (Information and Communication Technology) は、情報の記録や共有を効率化するための「手段」として導入されました。しかし近年では、その活用が単なる業務効率化にとどまらず、園全体の意識や文化を変えるDX (デジタルトランスフォーメーション) の段階へと発展しています。

DXとは、デジタル技術を活用して業務のやり方を変えるだけでなく、組織そのものの価値観や働き方を変革する取り組みです。城崎こども園では、記録のデジタル化をきっかけに、職員一人ひとりのまなざしや保育観、そして園内の学びのあり方までが変化してきました。ICTを「使う」段階から、ICTを通して「考え方や関係性を変える」段階へと移行しているのです。

### 3. 「どこだれ」記録がもたらしたデータ活用と意識変革

ICT導入の中で特に大きな成果を生んだのが、タブレットを活用した「どこでだれと何して遊んだ」(通称「どこだれ」) 記録です。

これは、保育者が日常の遊びの場面を短時間で多く記録できるようにした簡潔な入力形式(チェックボックスと短文入力)を特徴としています。日時・クラス・場所・遊びのきっかけ・活動タイプ・子どもの名前を記録し、年間で約1万件に達するデータを蓄積しています。

この膨大なデータをもとに、テキストマイニングや相関図を用いた分析を行うことで、子ども一人ひとりの興味や関係性を客観的に可視化できるようになりました。

になりました。保育者は「感覚的な理解」から「データに基づく理解」へと視点を広げ、保育をより科学的に捉えるようになっていきます。これこそが、DXの本質である「データを根拠とした意思決定」の第一歩です。

さらに、週ごとの「環境図」や「エピソード記録」と併用することで、三つの記録が互いに補完し合い、子どもを多面的に捉える実践が進んでいます。

### 4. ICTが支える園内研修と組織学習

ICTの活用は、単なる記録の効率化にとどまらず、園内研修や職員育成の質を高めています。

2017年に外部講師・相馬靖明先生を招き、月1回の継続的な園内研修を開始しました。記録や写真・動画を基に、子どもの姿を分析し語り合う過程で、職員間の理解の「ずれ」が見えるようになりました。この「ずれ」をICTで共有・可視化することが、対話と学びの土台となりました。

タブレットやOneNoteなどの共通プラットフォームに記録を集約することで、個人の気づきが全体の学びへと転化し、職員間での情報共有が深化しました。

このような「見える化」と「共有化」を通して、園全体が学び合う組織へと変化しており、これもDXの重要な側面といえます。

### 5. オンライン公開保育とICTによる外部連携

2020年からは、オンラインでの公開保育を継続的に実施しています。

複数のカメラを用いた中継や動画の事前共有により、全国各地から保育関係者が参加し、園の取り組みをリアルタイムで観察できるようになりました。オンライン公開保育は、コロナ禍で生まれた「必要からの工夫」でしたが、今では他園との交流・研究の共有・職員育成の機会として定着しています。

ICTによって地域や時間の制約を超え、学びのネットワークが広がったことで、城崎こども園の保育は「オープンな学びの場」へと変化しました。これもDXによる業務構造の変革の一例といえます。

### 6. ICTとDXがもたらす展望

これまでの実践を通して見えてきたのは、ICTが単なる便利な道具ではなく、DXとしての園全体の変革を促す力を持っているということです。

ICTの導入により、

\* 記録の客観性が高まり、職員間の共有が深化したこと

\* 外部講師や他園とのオンライン連携が可能になったこと

\* 言語化・可視化が進み、園全体の学びの文化が育ったこと

が挙げられます。

今後は、蓄積されたデータをより深く分析し、子どもの興味や関係性の変化を継続的に追う仕組みづくりを進めていきます。ICTを活用して得たデータを、保育の質の向上だけでなく、組織としての意思決定や働き方の改善にもつなげ、「ICTの活用」から「DXによる園文化の変革」へと発展させていきたいと考えています。



# 子どもの笑顔が、社会を温かくする

## 「明石市における多機能連携への挑戦と、社会福祉法人の役割」

明石支部・幼保連携型認定こども園すみよしこども園園長 西窪 千佳

1. 「こどもが日々生き生きと過ごす場所を提供し家庭の負担を軽くしたい」という思いから

私たち社会福祉法人美友会は、2016年に兵庫県明石市にて設立しました。設立の原点には、「子どもが日々笑顔で過ごす場所を提供することと現代の子育ては家庭に精神的負担が大きすぎる」という課題意識がありました。微力ながら地域の待機児童解消の一助となるべく、2017年4月に認可保育園すみよし保育園を開設し、その後、地域の子育てニーズの変化に 대응する形で、2021年には幼保連携型認定こども園すみよしこども園へと移行いたしました。

私たちの法人の根底にあるのは、「Enjoy with a smile（全ての人が笑顔で過ごす）」という理念です。私たちは、子どもの笑顔こそが、周りの大人の心も温かくすると信じ、その笑顔を支えるために、多岐にわたる支援のネットワークづくりに試行錯誤しながら取り組んでいます。

2. 目の前の課題から生まれた「多機能連携」

美友会が展開する多機能化は、決して最初から壮大な計画があったわけでは

ありません。すべては、目の前の子どもやご家庭が抱える課題に真摯に向き合った結果です。

こども園での支援経験から、より専門的な支援が必要な子どもたちのために、2024年6月に障害児通所支援事業 ship for 発達支援・放課後デイを開設いたしました。

その中でも最も課題が大きく社会的な解決が求められたのは、医療的ケア児のご家庭からのご相談でした。保護者の方からは、「我が子が医療的ケア児だと知った時『今までの生活が出来るとは思わなくてください』という保健師の言葉が心に残っている」という胸の詰まるお話を伺いました。私たちは、誰のせいでもない状況の重責を家庭だけで背負わせるべきではないと強く感じ、社会福祉法人として「地域の困っている家庭に寄り添う」必要があると考えました。

3. 地域と協力し、組織で課題を乗り越える

医療的ケア児の支援については当初、園で看護師を雇用し在園児である医療的ケア児のケアにあたっていました。が看護師1人で医療ケアにあたるという負担や孤立という課題に直面しま

した。そこで看護師が互いに相談し、専門的な議論ができる組織的なバックアップ体制が必要だと考え、2024年4月に小児・医療的ケア児特化型訪問看護ステーション ship for ならしんぐを開設しました。

行政としてもこの分野での知識や経験が少なく苦慮されていた中、明石市との業務委託契約により、市内の認可施設で集団生活を送る医療的ケア児のケアを、微力ながらお手伝いさせていただいています。命に関わる判断を求められる現場ですが、看護師たちは子ども達と共に遊び回り、笑顔で教育保育現場での奮闘を続けてくれています。

これは、「誰かだけに我慢が強いられるのではなく、皆で分かち合うことで社会を少し温かくする」という、私たちの願いを形にしたものです。

4. 職員の笑顔が、地域とのつながりを生む

多機能連携による質の高い支援を継続するためには、職員の安定が不可欠です。私たちは、職員が心にゆとりを持って生き生きと働けるよう、働き方改革に力を入れています。有給の時間取得、就学前児がいる職員の育児看護

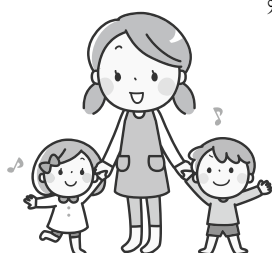
休暇の有給化、完全週休2日制（年間休日120日）の実現、短時間正社員制度、研修の充実など。その結果、職員の働く姿を見て、保護者の方や地域の方が自分の資格を活かして当法人での勤務を希望してくださるという、大変ありがたい好循環が生まれています。これも、地域の皆様に日頃から温かく見守っていただいているおかげと感謝しております。

5. 社会の課題に寄り添う一歩

私たちの取り組みは、「家庭の負担軽減」と「社会で支え合う温かい地域づくり」を諦めずに追求してきた結果です。

現在、不登校など多様な教育課題を抱える子どもたちへの支援として、フリースクール事業を検討しており、これからの社会の問題に誠実に取り組む法人であり続けたいと考えております。

私たちのような社会福祉法人が、地域や行政・各関係機関と連携し一歩ずつ課題を分かち合うことで、様々な方々の豊かな生活を切り拓いていくことができるかもしれません。共に温かい社会の実現に向けて、知恵を出し合っていけると未来はもっと明るくなると思います。



# 新たな事業の展開について

淡路支部・幼保連携型認定こども園園長 三倉 克仁 (副会長)

今年度の理事会にて、これからの協会メリットを検討していくための(仮称)事業部について「事業部設置検討特別委員会」が発足されました。

現状、兵庫県保育協会では、研修や学びの機会の提供、最新情報・制度改正等のタイムリーな情報共有、法律相談やネットワークづくりなど多角的なサポートを行っています。

先日、全国私立保育連盟事業部長会議に参加させていただき、充実した保

育所・こども園の保険制度や便利なデジタルコンテンツなどの紹介があり、まだまだ会員メリットになるものがあると感じました。

もつと会員メリットになる事を調査し、会員の皆様に提供できるものを「事業部設置検討特別委員会」で考え(仮称)事業部について今年度中に方向性をお示しいたしますのようしくお願いいたします。

## 理事会開催

9月8日に第267回、10月20日に第268回、12月16日に第269回理事会在開催されました。審議・協議した内容は次のとおりです。

### 第267回

①調査研究委員会アンケート調査内容について  
②地域における就職フェアの共催開催について

### 第268回

①賛助会員の入会について  
②職員就業規則の改正について

### 第269回

①令和8年度事業計画(「I基本方針、IIビジョン及び重点目標」)について

## 新会員の紹介

令和7年度から協会に賛助会員として入会された業者を紹介いたします。

(第268回理事会承認)  
賛助会員  
株式会社 カタグルマ

代表者 大嶽 広展

所在地 東京都千代田区神田岩本町

4番地9 トウルム神田4階

取扱商品 人財育成・人事評価 ICT

## 令和7年度請願署名・予対活動

8月にご依頼していました予対活動協力金につきましては、1,358,620円のご協力をいただきました。ありがとうございました。上部団体等に次のとおり配分しましたのでご報告申し上げます。

- 兵庫県社会福祉協議会 418,000円
- 全国保育協議会 370,310円
- 全国私立保育連盟 570,310円

(署名人数)

内閣総理大臣宛 33,490人



## 保育×AI

～明日の保育・教育を支える新しい道具～

開催日時: 2月27日(金)

14:00～16:00

会場: 三宮センタープラザ西館  
貸会議室17号室

講師: AIディレクター KEITO氏

## 兵庫県内保育園・幼稚園・認定こども園 合同就職フェア2026年

開催日時: 5月30日(土)

10:00～15:00

会場: 神戸国際展示場1号館

## 令和8年度 兵庫県保育大会

開催日時: 10月24日(土)

13:00～16:00

会場: 山崎文化会館(宍粟市)

## 令和8年度 主な研修等

5月20日(水)～22日(金)

全国私立保育研究大会(北九州市)

7月9日(木)～10日(金)

全保協近畿ブロック保育研究集会(和歌山城ホール)

9月5日(土)

兵庫県就学前教育・保育研修大会(神戸市内)

## 今後の主なキャリアアップ等 研修予定

詳細については、順次メールでお送りします。

- 2月2日(月)  
食育・アレルギー対応研修会
- 2月19日(木)  
乳児保育研修会
- 3月5日(木)  
新規採用内定者研修会
- 3月6日(金)  
実習指導担当者育成研修会



発行 公益社団法人兵庫県保育協会

啓発広報委員会

神戸市中央区坂口通2丁目1-1

兵庫県福祉センター

TEL (078) 242-14623

FAX (078) 242-11399

ホームページアドレス  
<https://www.hogo-hokutsuokai.or.jp/>